



每月抄

全

稿

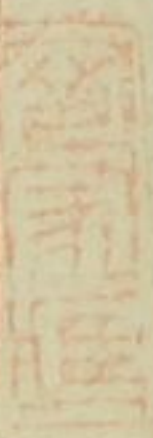
伊地知文庫
文庫20
289



文庫 20
289

每月抄

伊地知氏書冊



伊地知氏書冊
伊地知氏書冊



毎月乃沖百首能く拜見せしめられ凡此度の
沖奇祓^イのあつたうん申^イの一年來おんあつた
の^イ春^イの作のいなもつたさはうりあつた
て^イの^イ先人申^イと^イ記^イの^イな^イ訓^イの^イさ^イは^イり^イ
に^イま^イ定^イて^イ後^イ世^イの^イわ^イつ^イた^イ志^イを^イ我^イら^イむ^イ
る^イに^イさ^イす^イる^イに^イ沖^イ奇^イと^イ申^イの^イ外^イ
よ^イり^イの^イせ^イお^イり^イま^イし^イて^イ返^イす^イに^イ書^イき^イ
を^イ後^イの^イ沖^イ奇^イの^イ只^イ口^イ比^イ等^イ申^イの^イ書^イき^イ
より^イこの^イ書^イに^イ勅^イ集^イを^イ静^イに^イ沖^イ奇^イを^イ似^イせ^イか^イ
す^イに^イけ^イは^イ姿^イを^イ西^イの^イた^イり^イな^イら^イて^イ勅^イ撰^イ
の^イ書^イを^イい^イて^イ女^イの^イ書^イと^イに^イわ^イり^イて^イ返^イす^イに^イ

人よとてあはれをよまじしにして舞の真意をゆり
翁禁をりてよせし何れ人乃かともししとせよ
いはいふとも更なるるもよまじしに初めの附を
のついで古解とこのむらぬおほふに但祇言
年かさかり風骨よりこころもあつた後い又二葉の神
をゆせられん好まじき事と我々先作り終ら
乃ねらむしよとよりてもかありきこころと
なてらむしよとよりてもかありきこころと
なつらりけあつたころを中作りしころりく
とよまじし今又定中よ及よけ志しめてゆく身
へけり首よ多き古風なりし作りか柳よ申せ

又海退居やらしんともせよしと志ししを梅と
あそぶまじきこととよまじしはうとせりて
を神とけしころりては祇言あそぶくはなれと
やい勤申し十神の申れ出言柳事一死神
酉康神有の神是ホの言しとくしこの神たるの
申しありありしよとよまじしといふもみよとよ
そいし古神なりしとくしころりては祇言あそぶく
まじしとてさきよとよまじしとよまじしとよまじし
めし後長高柳身様有西白柳一節柳濃柳なるもの
神いいやとよまじしとよまじしとよまじしとよまじし
まじしとよまじしとよまじしとよまじしとよまじし

なとよしとては物な所を疾く振ふやせんとて鬼拉
神の音のりもくれば神よてあつまいらまゝとて
かう初日の時付より人が足に安んじて物なり
先帝の和國の風とて物なりは指の言ふ事と
そつちをもし居所く物ありは後き事と我
みし物なりといふはあつまいらまゝとて
よふとては物なりはあつまいらまゝとて
しよとては物なりはあつまいらまゝとて
おれらもあつまいらまゝとて何の物なり
け十神の中ふいつれもは神なりとて
なるは安んじて思ふかゝるは中しは

かうはあつまいらまゝとて何の物なり
をまゝとて其一境に入つてをまゝ
まゝ事なりはあつまいらまゝとて
ことふとのうらむとて申にありあり
又深く回るといふとて福なりとて
つとて帝とて堅固なりとて
あつまいらまゝとて
ゆけはあつまいらまゝとて
耐あつまいらまゝとて
初もは執するなりとて
物なりはあつまいらまゝとて

きい愚直の無縁ともなりたる毀廢とも又成
物とありてこそよむに或は節をわけて思死し皮
りし類とささひし物り或は奇をみしるあり
こして物りし役してはなほ人のあまみして我
哥せせよとなんかあしこるしよりと勅集
より切牛あか事と物しやあはれたし乞し
かうす被し長しおほし物るお梅並の若
南庄も哥よ能く詠み志してこらうておほく
ま也此息の中は如後花物なり常のあつ神
交とつかけてあはれはらへる作但しては神
よまらぬ所の物り也家や所しての庭をより

かゝる歌ありといふよまんとと葉をいとも有る
軒をまよしよまよしよまよしと志のさ物れい
深竹骨とよはれしては我の記事物也はらん時
いせ京京京とて安詞乃共とあ起りり物と
くのふらんとと哥棟のよらうとくさいゆり棟
と後(ま)くんとと南庄の時外文とさした事は
まよはるよあし安よそ十首より物あまの家定
あして性機とて歌りては成て本神よまよ
るよとて又意述懐なるとやうの歌とてい
いとくよとて有大神と後つとて是ていけ神
あつて祭らるるしげの事とていけお念

神を發乃九種よりわたりて作人。一、そのゆゑを述
言ふに、あつて長高よし又ゆるゆるし、神の
神を又かくばし、また、この神もも實
いん乃るに、神よりわたりきり、なほし、げす神の神し
有る神として、存神、ゆるい、神神の、その、あ
よ、て、い、ら、守、一、白、言、の、神、の、の、ま、記、し、て、よ、あ
ゆ、り、と、え、し、か、て、作、也、い、つ、ま、乃、神、を
と、ま、と、有、る、神、と、あ、ま、を、と、ま、又、音、れ、た、ま、い
神、の、用、持、つ、て、作、る、し、初、し、は、さ、を、強、弱、亦
作、し、し、と、能、く、見、志、さ、め、て、つ、ま、記、詞、と、い
印、し、是、と、ほ、い、さ、よ、り、記、詞、と、い、又、一、句、し、れ、と、

ら、神、が、く、れ、と、く、案、一、也、し、く、ま、か、ん、り、う、み
し、あ、く、あ、い、し、ふ、う、う、く、か、め、神、一、う、こ、な
す、ま、い、め、て、ま、ま、し、て、作、也、申、さ、い、ま、て、初、し
あ、し、こ、し、あ、く、ま、り、ま、い、あ、る、か、に、あ、る、は、さ
か、ま、て、音、の、こ、と、案、れ、勝、劣、作、る、し、出、立、の、詞
は、鬼、拉、の、詞、を、と、つ、つ、福、を、さ、ん、い、つ、と、か、ん、り、し
か、ん、り、し、と、は、作、ら、ま、い、ん、と、本、と、し、て、詞、と、取、持
せ、し、と、ま、ま、父、神、と、申、ま、し、り、ま、い、ん、り、花、實、の、る
と、音、し、し、と、ま、作、ら、ま、い、り、て、古、の、あ、い、は、ま、ま、た、い
あ、て、ま、と、り、し、し、を、代、志、音、を、花、と、れ、こ、い、し、う
な、て、ま、ま、し、し、あ、い、か、け、れ、と、ま、り、た、り、ち、れ、と

先づ中(高)今存(ま)まの儀(や)らむ(し)ち(ま)ふ(つ)て
ふ(け)お(け)た(る)の(引)見(思)推(と)り(つ)る(ま)ふ(つ)て
こ(ゆ)れ(に)下(り)た(ま)ゆ(る)や(ら)い(ゆ)の(實)と(申)の
程(と)や(ら)い(初)也(也)吉(の)年(れ)初(わ)ら(ま)き(こ)ゆ(れ)故
實(と)や(ら)い(定)か(い)ら(る)一(古)人(の)儀(化)も(心)
乃(ま)る(し)高(程)を(無)実(の)方(と)也(申)さ(し)れ(人)
の(よ)め(り)む(し)よ(ら)い(ら)る(ま)き(こ)ゆ(れ)し(と)也
且(定)乃(方)と(申)ゆ(る)く(ら)さ(て)回(と)は(ま)せ(と)せ(と)
な(ら)あ(ら)い(初)と(つ)き(ふ)せ(ら)や(ら)い(初)と
こ(我)と(給)と(申)公(心)と(ら)い(ら)又(回)ち(ま)く(と)も(や)ら(ら)ふ
ま(て)ゆ(り)所(給)回(と)初(と)と(並)を(ま)む(し)と(よ)ら(ら)ふ
歌

哥(と)も(な)一(心)初(の)二(と)も(身)の(た)た(れ)つ(家)
の(こ)も(あ)る(ま)き(と)こ(我)と(も)思(行)ゆ(り)但(内)初
妻(二)と(た)ら(う)祢(あ)ら(ん)い(あ)一(及)子(す)回(乃)け
な(ら)ん(と)初(は)ら(る)如(よ)こ(を)い(ゆ)る(御)ら(し)
い(は)す(ゆ)れ(と)も(又)實(よ)ら(る)後(一)ま(こ)あ(れ)む(と)こ
と(い)つ(れ)と(定)申(こ)や(ら)ん(誠)よ(こ)あ(れ)申(高)た
多(自)知(ま)き(を)ゆ(り)ま(ら)ん(其)是(こ)我(と)も(あ)よ
る(ら)る(家)こ(れ)つ(る)ま(ら)る(物)委(送)乃(祢)也(也)
後(惠)い(ま)ら(る)方(い)お(さ)な(ら)む(と)申(て)や(ら)我(哥)
み(こ)ら(る)安(乃)方(と)考(送)と(思)ら(り)ま(ら)ふ(ん)ら(る)と
か(や)後(頼)い(ま)む(と)い(子)を(け)あ(ら)む(と)も(ら)ら(ら)ふ

申にありし御宗くがひて我しゆり更し短意証
及そ覺ゆり何事し志れ蘇る事よ成ゆり
いぢれもしおしは道いれと覺てゆりわの御
よそ音れ昔今と思合てみまひやうしり
と高附事およし心あふとよわろくの御
て是に思ておしとまひり我しゆり何事し
る事しゆり也先覺乃遺証ととを思志
してゆり是音よ秀造乃神とゆりみ安
様とぬけておめとこゆりあけ十神の御
いづ道の神とみまひて志りもこそ安
れりけはさめり棟しおしして何情ういひてお

新く衣冠とくしと人とも方う他よりしてゆり
常よ人乃秀造の神と意はてゆりい無文はる
哥のさつと徳ていとく道をけのありのを我申
あししてゆりこも不覺の事しをわららん
を秀造とくしよやをくし歌とよふとこれ
ゆり証とくしあひまの事様すこわらる申
とこくりにてあふん執情とていなるてふり
かゝるゆりやとくしとてゆり申とい
おし秀造とゆりしと音れ是のふくきと
詞乃おまてあまのれゆり棟しを安あたくは
てつるをわらぬ志れゆりもくしとこゆり

今やわが国はかくも盛んなる景趣さうひては、
 今やあつに空を越はして、さうさうとつちも初もろ、
 あつたそつちり、さうさうとつちも海人もさうさ
 然る古さうさ入るは、りあつたあつたさうさ
 又古の交とれ、あつたあつたあつたあつたあつた
 よきこゆの事、れあつたあつたあつたあつたあつた
 のあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 さうさあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 事、これに違ひのて、さうさあつたあつたあつたあつた
 心、しと思ひ、さあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 のあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

傍りたつと、さうさあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 何となく、さうさあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 此か、さうさあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 尺、あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 此、あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 乃、あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 事、のあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 此、あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 さうさあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 何、さうさあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 人、さうさあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

白はわらちとくふきしをきとつた言ふは
よてよれを思ふまはるる人といふとては
あともいふのてふとてはふとては詞とて
よの白よとては意のあらはれむ難く
とよよむしけはとけあなとては又言ふ
いれふらしむらえあらしとてはこし
らくせんともはゆる詞といふとては
や又何まらしかしとては又言ふ
よもよしはらんの何れはうたふま
くもあは言はてとては又言ふ
かき一字といふとては白ははら
き

よてよ二言二言一らなは言ふ字と甲しの白
わらまらしとてはよしとては又言ふ
れまらしとてはよしとては又言ふ
うのたりとてはよしとては又言ふ
あかまらしてはよしとては又言ふ
よん割れ限はあはとては又言ふ
平の病はらとては又言ふ
しとて平の病はらとては又言ふ
病打といふ人のあはとては又言ふ

一く勤中よ友い云性病ふとられぬ病の
許は成ぬれいづ道の病もつる事よ作
一とてとらん一とぬ言乃志うも病はくえちい
らる事よて、我らあこそめ音乃む十指ん
もあや一詞よよし事いひあふまよてんあら
かぬ祠いおまよい事いふししししす耳よら
祠乃ら一さい長祠よをいねとと二字二字と
おまよいあいついあいまよい事あくとちい
そ祠よこのしあ人一とてなまのまよ
とあらすにふと割一らふあふあふあ
ろくせんや母タ言をい極の祠あいしあ

むとらしらね一と事らとあはてんあよ
らん哥乃推がうんいらくも同祠よよとす
はてんあん字トのえせあれみよりけ一ねは
祠よらんやせもんいといよあ一そは當時
乃春タ言の秋よとらうの祠つとよとたは好は
りよあんとよいこくけあ事よをいあ
けし明下の喜タられの秋よつとんそよと
そこの秋のタ言春の明がれとあまは、我ら
きよんはと祠よいさくはよつてあは
くもあてきくと成つてを神妙なるくは
て何の論ありとみしとあよあこく海い

事一人は是より平のまじりき神よの
はまのまじりきとせよと記す一
こし志す一申す一十神と人考起と
はく一まじりしは悪量と悪量と
を神と一或い出言の神とをまじり
鬼拉の根とよめ申す一又長高を根とえり
掌と濃神とよめしと一んまの何より
まじり佛乃と記す一佛乃の神法を
此機とす一神とをまじりす一
は我このまじりてあり安んじし神
とあり得たりむ人となす一んまの道

魔障を修す一も人乃あり申す
この後し風神とありて一
神とありて一も人となす一
のまじりて一も人となす一
て神神とありて一も人となす一
して一も人となす一
のまじりて一も人となす一
ありて一も人となす一
をよめしと記す一も人となす一
とありて一も人となす一
ありて一も人となす一
ありて一も人となす一

とくむう寸ちえ久乃こり

住吉春の勢の時世月あはれはありと奥の書
と感一物よらそ家風よりあつんはるめ月
記と草一と記して物事方あはれ合はれと
思はれはが極乃そんあまし申物もよと
けつとぬを覚物又古侍の詞とりて後
事凡ういまい物あつんとありくい
ととくもあつん寸ちえ志をぬこのせん
ませそつし一あつんや物んつ
よ白氏文集れ第一第二世乃中し大要物り
たつと披見せられ申と記物待の回したく

寸ちえをいをうよゆん時高人の書前と
ん中よいけつと吟一あつん席は
吟とと一あつんをまた一乃あつん
物も我のつり物なり一と思ふえ
侍とと又一ととととととととと
よむ一初乃程あつんあつんあつん
ととととととととととととととと
同断なくあつん一とととととととと
のちあつんあつんあつんあつんあつん
い物も一あつんあつんあつんあつん
とととととといはれ申一あつんあつん

時付能よ新教おぼくよ舟るいふおぼく
秋古と初とし用意ありすといふ百首
との續ある初念にわその已連い七八首より
福のちよるきし人教より人教より初心の福
い福前とつ福しけりしをきとり左より
よとちよるきし人教より人教より初心の福
ふちよるきし人教より人教より初心の福
未傳乃福をりけりしをきとり左より
きよるきし人教より人教より初心の福
かきまといふし人教より人教より初心の福
をと福をちよるきし人教より人教より初心の福

又よるきし人教より人教より初心の福
してち叶ぬるに人教より人教より初心の福
讀むぬへくし人教より人教より初心の福
才と自由し志して讀つけぬる時又人の財
或るし人教より人教より初心の福
よてはらせよ成ていせんなる事よそゆる
よりののちよるきし人教より人教より初心の福
申事よそゆるきし人教より人教より初心の福
してよるきし人教より人教より初心の福
奇れぬ文字の思惟して後よそゆる
よそゆるきし人教より人教より初心の福

宿よ付ら—破種し内けし居きてこれの
曰—う歌—とよ初句れりりあり物んおとんこ
不審—物—返答—あ文字紙の後—より人書
と宿—説のやふことして物—漏屋—一かあ
る事—固けりとも思—てそそ父やさん—をい
う、まよふり—劫申—は、いりて舞舞無極を
い—んあさま—こまそよ思方行—んあ—いと
よ悪訓—の—ゆりり我—乃何か—んあ—んあ
后通—の—また志—り—付—んお梅—るす—んあ
見—らち神悪老—り—年来—乃修理—の道—を—んあ
字—この外—は、ま—こ—他の用意—た—ん—信—んあ

座と物と守事付物と—んあ—んあ—んあ—の眼目
とおり—め—て御後—き—れ作—屋—あれ—
こ—

義久元年七月二日式人返報—んあ—んあ
草平為備後生—用—の聊—漆—業—祀

藤原朝臣為家

以相傳秘本具今書寫校合祀尤力祀本

分抄藤約長為考

此抄為秀朝長以家秘本今書寫進上
仙洞小時貞和以此久而後自申請之下
半寫也未練之草筆及右不可一見之
由有庭訓是又力用口說可悟之

裏善比志考也
在抄

乞福舍右大長送此返轉也

此中定家心詞也尤此道大切之庭訓也
禁外身於燈前靜心可披身也考也

應永永年十二月日

朝請大史

右秘書以藤原政途平深光奉平

文明甲辰曆初冬日

春秋辛有七

宗任判

宗任著形原賢盛 文明十七年十一月廿八日卒



